



肥料と土のことならすべて当社におまかせ下さい。

肥料が良ければ土が生きる

—— 土がダメならすべてダメ

当社の土と肥料を使用した菊づくりは極めて成功率が高いお得な商品です!!

当社の資材づくりは、腐葉土づくりに始まり、培養土づくり、さらに肥料に至るまで、菊の生育過程に最適化してあります。

そこに他社製品を混用されると方向性に狂いが生じ、優秀花につながらない場合が起きています。その理由は培養土にリン酸を配合すべきところをチッ素分を配合したり、リン酸を与えるべきところをチッ素分の多い肥料を与えてしまったり、さらに有機質肥料を使用すべきところを化学肥料を与えてしまう。また同じ有機肥料でも発酵したものを与えるべきところを未発酵の有機質肥料を与えてしまうなどなど…。

最も重要な部分が間違っている為、「葉が黒くなったり」「根づくりが不十分」などチッ素過剰の生育をする。こうなると基準がくるってくる為、修正の方法がわからなくなり、“本物の菊花”を見ることなく菊づくりを終わることになります。

当社資材は何らかのご縁があり、お使いいただいている愛好家の皆様が、必ず優秀花をめざすことのできる“生育過程に最適化した土と肥料”です。

そのよい例が作り始めて2年目の方から電話をいただき、3年目から肥料と土づくり資材すべてを切り替え、2年後に県大会で最高賞を4～5部門入賞し話題になった実例もあります。

上手にできない、イマイチできない方は、迷わず

当社の土と肥料をおためし下さい。自信をもっておすすめします。

菊づくり最大の失敗のひとつがチッ素過剰です。

腐葉土づくりの際、米ヌカや油カスなどを入れ過ぎた場合や培養土に乾燥肥料を入れたり、定植時に鉢底に多量に入れた場合に必ず発生します。

軽度の場合は葉の色が濃緑色となったり、葉のフチが波打ったりします。

また重度の場合は葉が巻き込む、さらに大きな問題は小鉢上げをした場合の茎先の枯れ込みがあります。

腐葉土のチッ素が多過ぎる場合、培養土は当然チッ素過剰の土ができています。

しかし、土が原因でチッ素過剰の生育をすることに気がつく愛好家の方は少なく、肥料にその責任を転嫁している場合がほとんどです。さらに肥料に関しては、有機肥料か化学肥料かの問題があります。また肥料濃度障害の発生により、重度の生育不良となることもあります。

有機肥料は未発酵のものと発酵したものでは、その結果は別物です。しっかりと区別する必要があります。(後で説明)

「発酵した有機肥料」は鉢に施すことで土中微生物の栄養源となり、増殖や活動が活発になります。その効果で土の排水性や通気性、保水力、保肥力など、土の物理性が改善され、根の働きが高まり、根張りがよくなります。

さらに微生物の産出するアミノ酸、酵素、ミネラル、植物ホルモンなどにより体質が強く健全でイキイキと力強く旺盛な生育をします。

その結果が充実した木づくり、花の肥大、花弁の色ツヤの向上、花の日持ちなど優秀花につながります。

一方化学肥料は、土中微生物の栄養源となる部分が少なく、微生物は枯渇し、土の活性効果は期待できなく、土の物理性は著しく低下します。その結果、通気性が低下し、酸欠状態となり、根の活力低下、根いたみなど根張不良となります。

さらに微生物の産出栄養分の効果も期待できなく、葉が硬くなる、葉色がドス黒くなるなど健全な生育はしなくなります。

したがって咲く花も、花弁が硬く、花の色ツヤ、花の日持ちなど鑑賞価値は発酵有機肥料には遠く及ばない結果となってしまいます。

未発酵肥料については、鉢に施し、有機肥料の長所が現れる前に発酵が始まってしまいます。その時に発生する“発酵ガス”により、根いたみや根ぐされが発生し、生長が止まってしまいます。軽度の場合でも一定期間は生長が止まってしまいます。

特に鉢の中段に入れた場合は被害は大きくなります。

軽度の場合でそれほど目立たなくても確実に細根の損傷が発生しています。

根は分根をくり返しながら発達していく為、一定期間ガス傷害を受けた場合には秋の着蕾から開花期の根量は正常な生育をしている株と比べれば、大幅に少なくなっています。

“菊は根張りです” 大きな花を咲かせる為には決定的に不利な状態を作り出してしまうことになります。

発酵ガスによる傷害は一度発生した場合には 2 週間以上と長期に渡り受け続けることとなります。

しかも定植時に元肥として鉢中に施し発生する為、優秀花の咲くことは限りなくゼロに近くなってしまいます。

有機肥料は発酵有機肥料の材料にすぎません。発酵有機肥料が本物の乾燥肥料です。

菊づくりの肥料には有機肥料を乾燥肥料の位置づけで売られている商品があり、間違っても使用しないことが大切です。

残念ながら菊づくりでは化学肥料や未発酵の有機肥料を使用し、失敗をくり返している愛好家の方が非常に多いのが実情です。

実際に素晴らしい培養土を手に入れながら、化学肥料や未発酵の有機肥料を間違えて使用したり、最高の肥料を手にしながらか違った土づくりをしたり、購入し、本物の菊づくりができていない愛好家が非常に多いのが本当の話です。

当社では、こうした土や肥料の不備による、失敗が起こらないように理論的にも実際に使用する上で土づくりから肥料に至るまで、生育過程に最適化した資材を生産しています。

使い方に間違いがない限り、失敗がなく確かな効果が得られます。せひ土と肥料を総合的にお使いいただくことをおすすめします。

2018年5月吉日

ウチダケミカルコーポレーション